



免疫抑制剤

アザニン[®]錠50mg

日本薬局方アザチオプリン錠

No.10021

効能・効果および用法・用量に関する一部変更承認のご案内

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品につきまして、格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび2007年11月30日付で、アザニン錠50mg（日本薬局方アザチオプリン錠）に関する効能・効果及び用法・用量の一部変更が承認されましたので、ご案内申し上げます。

今後とも一層のご高配の程よろしくお願い申し上げます。

敬白

変更内容

承認内容	変更前	変更後
効能・効果	下記の臓器移植における拒絶反応の抑制 腎移植、肝移植、心移植、肺移植	下記の臓器移植における拒絶反応の抑制 腎移植、肝移植、心移植、肺移植 ステロイド依存性のクローン病の緩解導入及び緩解維持並びにステロイド依存性の潰瘍性大腸炎の緩解維持
用法・用量	通常、成人及び小児において、下記量を1日量として経口投与する。 1. 腎移植の場合 初期量としてアザチオプリン2～3mg/kg相当量 維持量としてアザチオプリン0.5～1mg/kg相当量 2. 肝、心及び肺移植の場合 初期量としてアザチオプリン2～3mg/kg相当量 維持量としてアザチオプリン1～2mg/kg相当量 しかし、本剤の耐薬量及び有効量は患者によって異なるので、最適の治療効果を得るために用量の注意深い増減が必要である。	1. 移植の場合 通常、成人及び小児において、下記量を1日量として経口投与する。しかし、本剤の耐薬量及び有効量は患者によって異なるので、最適の治療効果を得るために用量の注意深い増減が必要である。 (1) 腎移植の場合 初期量としてアザチオプリン2～3mg/kg相当量 維持量としてアザチオプリン0.5～1mg/kg相当量 (2) 肝、心及び肺移植の場合 初期量としてアザチオプリン2～3mg/kg相当量 維持量としてアザチオプリン1～2mg/kg相当量 2. ステロイド依存性のクローン病の緩解導入及び緩解維持並びにステロイド依存性の潰瘍性大腸炎の緩解維持の場合 通常、成人及び小児には、1日量としてアザチオプリン1～2mg/kg相当量（通常、成人には50～100mg）を経口投与する。

以上